2019年度(令和元年度)　草津市立新堂中学校通信　　Ｎｏ.４（７月　１０日号）

しんどう中学校通信

～仲間とともに高めあい　豊かな学びと心を大切にする学校～

「ものづくり」体験について

７月５日(金)に、２年生で「ものづくりの魅力」講座～めざせ マイスタープロジェクト～の取り組みがありました。和菓子づくりや建具づくり、木材加工や造園等…いろいろな「ものづくり」体験をその道のプロの方から直接指導をしていただける貴重な学習であったと思っています。子どもたちはマイスターから直接聞かせていただいたお話や制作体験を通して、その世界(その職業)の魅力を少しでも感じてくれたのではないでしょうか。

「マイスター」とは、ものづくりの世界や職人の世界でその高い力量が認められた方の称号です。主にヨーロッパ(特にドイツ)の方で使われることが多い言葉ですが、日本の伝統的なものづくりの世界や職人の世界では「匠(たくみ)」や「名人」と言った言葉がこれに当てはまるようです。

この世の中には本当にいろいろな職業があります。そのような中で、職人の世界に限らず、スポーツや芸術の世界においては、その人（トップアスリートやアーティスト）が経験や努力を積み重ね、その技術を磨き力量を高めることによって、その人自身の高い評価につながっています。職人の世界であるならば、５年・１０年ではまだまだ「駆け出し」とみなされる世界であり、そこに「マイスター」の称される方々の素晴らしさがあるように思います。

当日、私は宮大工「木澤工務店」の木材加工の講座に入らせていただき棟梁(マイスター)の方のお話を聞くことが出来ました。「樹齢７０年のヒノキの材であるなら７０年はもつ建物をつくる。樹齢２００年の木材を使わせていただいたら、２００年以上は続く建築物をつくる責任をもってやっています。」という話がありました。プロの職人としての「自覚」と「プライド」を拝見することが出来ました。道具については個人的にも興味があったので後で個人的にお話を伺いました。「若い人は、まずノミの刃を研ぐことが出来ません、（５年、１０年かかってもしっかり研げないとのこと）ノミの刃を研ぐことが出来たら仕事も１人前。」と言うことでした。

全くの偶然なのですが、次の日の土曜日、NHK の番組「かんさい熱視線・清水寺大修復の舞台裏」を見ていたら、なんと木澤工務店さんが“清水の舞台”の土台柱の修復をされていました。

自分の職業観をどんどん広げていく思春期のこの時期、この日に伺ったお話や体験が「頭の隅」や「手の感覚」の中に何か残るものがあればと思いました。今後このことが、何かのきっかけで思い出すことが

あった時に「やってみたい。」「深めてみたい。」という気持ちにつながっていけばと思います。

将来どのような職業に就くかはわかりませんが、それまでに獲得した知識だけで「なんとなく」できる仕事はありません。わからないことは教えてもらい、覚え、経験し、努力して自分のスキルも上げていかなければなりません。続けていくことで信用や評価も生まれてきます。そしてそのことは、「ものづくり」にかかわる職業に限ったことではなく、どの職業であっても同じことが言えるように思います。そこに職業生活の厳しさと喜びもあるのではないでしょうか。２年生は１１月に「職場体験学習」があります。

校長　　伊庭　靖二

わくわく新堂教室の様子から…　6月25日（火）

わくわく新堂教室は、定期試験前の放課後に実施している新堂中ならではの取り組みです。先輩が後輩を教える、後輩は先輩に教えてもらうというものです。もうここ４～５年はずっと続いており“新中の良き伝統”となっているようです。

2年生「ものづくりの魅力」講座…　7月5日（金）

こちらのほうは、新堂中学校として初めての取り組みでした。県の職業能力開発協会の全面的な協力のもとに実施させていただきました。県内各地からプロとして活躍されている「マイスター」の方々に来ていただき、それぞれの講座に分かれて“出前授業”をしていただきました。体験時間は実質２時間程度と限られた時間ではあったのですが、２年生は本当に貴重な体験をさせていただいたと思います。

「和菓子づくり」の様子

「畳づくり」の様子

「造園」の様子

「木材加工(組手)」の様子

「建具づくり」の様子

「閉講式」の様子